

学校教育高度化センター後援事業

Ko Po Yuk客員准教授活動報告

報告者 佐藤 学 (教職開発コース 教授)

Ko Po Yuk教授は、香港において学習研究、授業研究、教師教育の研究において指導的な役割を果たされている。2011年11月21日から12月20日の一ヶ月間、東京大学教育学研究科学校教育高度化センターの外国人客員研究員として滞在し、所期の調査研究活動、並びに教育活動を展開した。主要な活動として、11月25日から28日にかけて東京大学で開催された世界授業研究学会 (World Association of Lesson Studies, 2011) においてシンポジウムを中心に発表と討議に参加し、同学会の理事として大会運営に貢献した。また、本センターの事業の一環として千葉市八千代市睦中学校、神奈川県茅ヶ崎市浜之郷小学校、茨城県石岡市城南中学校などを訪問して調査され、さらに12月12日、13日、19日に大学院生を対象として、香港における授業の改革、授業研究、教師教育会カクの動向について講演を行い、教育活動においても貢献した。Ko客員教授の講演内容の概要は以下のとおりである。

(1) 12月12日(月) 15時から17時半 (教育学部 4階409号室) における講演

「香港における学習研究の展開 (The Development of Learning Study in Hong Kong)」

2000年以降の香港における大規模な教育改革を背景とし、一連の教師教育改革もまた行われてきた。その一つの展開として、教師の専門性開発を担う「学習研究プロジェクト (Learning Study Project)」がある。香港大学 (The University of Hong Kong) での学習研究プロジェクト (2000年～) を嚆矢とし、香港教育学院 (Hong Kong Institute of Education) におけるVITALプロジェクト

(Variation in the Improvement in Teaching And Learning Project) (2003年～) にいたるまで、学習研究は教師の専門性開発の中心的なテーマとされてきた (2009年までに香港における半数の学校が学習研究に参加している)。

学習研究は、日本の授業研究 (lesson study)、中国本土の授業研究 (teaching study) をもとに、「変移理論 (theory of variation)」を理論枠組みとする新たな実践研究である。学習研究は、①学習の対象 (object of learning) に焦点化すること、②次の3種の変移 (variation) を跡づけることにおいて特徴づけられる。3種の変移とは、V1: 学習対象についての生徒の見方の変移、V2: 学習対象の教師の扱い方の変移、V3: 教育的デザインを導く原理としてそれらの変移を用いることという3つである。

こうした学習研究は、香港における教師の専門性開発の共通言語を提供することとなった。学習研究を通じた教師の専門性開発は、教師の専門家としての知識基礎の構築 (building up teachers' professional knowledge database) や、ケースブックの公刊、授業分析と授業観察プロジェクトのネットワーキングへと展開している。

(2) 12月13日(火) 15時から17時 (医学部一号館309号室) における講演

「香港における教師の専門性開発—その文脈と課題 (Teacher Professional Development in Hong Kong: The Context and Challenges)」

香港では2000年以降、カリキュラム改革・学校改革・教師教育改革を含む教育全般にわたる大規模な教育改革が進められてきた。

「7つの学習目標の10カ年計画 (seven learning goals for 10 years strategic plan, 2001-2010)」では、「健康的な生活 (healthy lifestyle)」「知識の広さ (breadth of knowledge)」「学習の技術 (learning skills)」「言語の技術 (language skills)」等の7つの学習目標が掲げられ、その内の6カ年計画では特に「プロジェクト学習」「批判的思考」「創造性」「コミュニケーション」といった主題がカリキュラムの中心に掲げられた。

学校改革としては、中等・高等教育の構造が、以前は3年+2年+2年の中等教育と3年の高等教育であったが、2006年より順次、3年+3年の中等教育と4年の高等教育に転換された。中等教育の後半の3年は、新しく後期中等教育 (new senior secondary) と位置づけられ、その卒業には新しく国家試験 (new public examination) が課されることとなった。

教職生活は多忙化が極まり (小学校教師は週30コマの授業、中学校教師は週27コマの授業、その後学校活動、事務仕事を行い、午後7時や8時を超えた勤務)、教師の自殺が社会問題とされている。その一方で、学校を基盤とするカリキュラム開発や同僚による授業観察等の教師の協同や教師の給与の改善等が政策として進められ、教職の専門職化や教師の専門性開発が改革の課題とされている。なかでも香港教育学院は、教師の専門性開発プログラムを主導し、教職開発の4日間プログラム (staff development day, 4SDD)、アクション・リサーチ・プロジェクト、学習研究、公開授業 (public lessons) 等を実施している。

(3) 12月19日(月) 15時から17時半 (教育学部 4階409号室) における講演

「香港における学習研究の事例—小学校2年生、中国語、読解指導 (A Learning Study case in Hong Kong: Primary Two, Subject: Chinese, Topic: Reading)」

学習研究は次の一連の活動を含んだサイクルを

形成している。学習対象の同定 (identifying object of learning)、事前テスト・生徒インタビュー、学習対象・重要な側面の決定 (finalizing object of learning and critical aspects/features)、授業計画、授業実施・観察、事後テスト・生徒インタビュー、最終評価、実践報告・普及といった諸活動である。

小学校2年生の中国語の読解指導の事例では、次のような生徒の学習の躓き (learning difficulty) が取り上げられた。①漢字の構成要素から漢字の意味を推測すること、②文脈に即して言葉 (漢字) の意味を推測することである。具体的な授業では、漢字の部首に注目することやその同義語や反意語を考えること等に新たに焦点化され、授業の改善が進められた。一連の学習研究を通して、それに参加した教師たちは、授業の焦点を明確にすることや生徒の学習についての理解を促進したこと、教師のより良い協同の在り方についての考察を深めたことを報告していた。